

神経精神医学教室（精神医学）

脳科学研究戦略推進 プログラム(脳プロ)

うつ病の異種性に対応した
ストレス脆弱性
バイオマーカーの同定と
分子病態生理の解明

うつ病の病因・病態研究

- 末梢血中の指標の同定
サイトカイン
DNAやRNAの発現
- モデル動物の作成
遺伝的脆弱性、GABA系改変
白質虚血、卵巣摘除 など
- 死後脳研究（病理学・生化学）
うつ病のBA9野で5-HT2A
受容体陽性細胞が増加
- 神経細胞新生研究
神経細胞新生と精神疾患

バイオマーカー研究

- ◆神経内分泌学的研究(DST・CRH)
ストレス反応性の内分泌学的
検討と生育歴との関連の解明
- ◆脳構造画像研究(MRI)
灰白質体積や白質線維走行の
定量解析
- ◆脳機能画像研究(SPECT・NIRS)
脳機能を代謝・血流で測定
臨床検査としての実用化
- ◆神経生理学的研究(MEG)
脳磁図による神経細胞活動の
高時間分解能での解析

研究室

テーマごとに柔軟に研究
チームを組むプロジェクト
方式で幅広い分野の研究

治療研究

- 統合失調症の薬物療法
クロザピン治療の臨床研究
副作用・作用機序・遺伝子など
全国規模のデータベース構築
- うつ病薬物治療の強化療法
うつ病の血管性要因に注目し
脳循環改善による回復を促す
- 経頭蓋磁気刺激(TMS)
悪性腫瘍のうつ病などへの
治療応用を目指す

主宰・参加している多施設研究

脳プロ・課題F「うつ病の異種性に対応したストレス脆弱性バイオマーカーの同定と分子病態生理の解明」
厚生労働科学研究「治療抵抗性統合失調症に対する治療戦略のためのデータベース構築に関する研究」
厚生労働科学研究「NIRSを用いた精神疾患の早期診断についての実用化研究」
新学術領域「精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学」

研究成果の出版

『精神疾患診断のための脳形態・機能検査法』(新興医学出版社, 2012)
『NIRS波形の臨床判読—先進医療「うつ症状の光トポグラフィー検査」ガイドブック』(中山書店, 2011)

大学院への入学方法

研修終了後1年間(卒後3年目)は精神科臨床
研修を重点的に行い、2年目(卒後4年目)から
大学院に入学し研究に従事する。

社会人大学院を選択し日中に診療に従事すると、
大学院の期間も右記資格を取得するための臨床研
修期間に含まれる。

大学院終了後の進路

希望に応じて相談のうえで決定する。

- ① 群大病院の医員として診療・研究
- ② 臨床研究部のある国立精神科病院で常勤
- ③ 総合病院精神科や精神科病院で常勤
- ④ 留学

大学院生の実態

大学院生は4名在籍。
研究は原則として週5日行う。研究時間は研究
内容に応じて決まる。生活費は、奨学金、週1日
の精神科病院での日勤勤務、および夜間や土日
曜の当直により、十分確保できる。

精神科 の資格

日本精神神経学会専門医
(研修2年+精神科3年で試験)
精神保健指定医
(研修2年+精神科3年でレポート)

問合せ

三國 mikuni@med.gunma-u.ac.jp
福田 fkdpsy@med.gunma-u.ac.jp
高橋 tkeisuke@showa.gunma-u.ac.jp